

和牛繁殖農家への肉用牛関係事業の推進と飼料費削減の取組

紀南家畜保健衛生所
○松山真也 高橋康喜
中本和弘

【背景】

近年、飼料価格等の高騰により、生産コストが上昇する一方で子牛価格が低迷し和牛繁殖農家（農家）の経営が悪化している。県は令和4年度より、独自の経営支援事業として和歌山県配合飼料等価格高騰緊急対策支援金（飼料支援）を実施しており、配合飼料や粗飼料等の高騰分の一部を補助している（配合飼料支援、粗飼料支援）。また、令和5年度には21年ぶりに黒毛和種で肉用子牛生産者補給金（基金）が発動し、加えて、令和5年度和子牛生産者臨時経営支援事業、令和6年度優良和子牛生産推進緊急支援事業が実施され、基金の上乗せ奨励金が交付されている（奨励金）（図1）。今回、飼料支援、奨励金を農家や関係機関に周知し、参加を推進するとともに、飼料費削減のため新たに野草を活用した飼養に取り組む農家に対し指導を行った。

【方法】

①飼料支援について、管内農家9戸に電話で事業内容を周知し、参加を推進した。奨励金については事業窓口である市町の担当者を交え、対面で説明した。また令和5年度の事業実績から管内繁殖雌牛1頭あたりの飼料支援、基金、奨励金を算出した。

②野草給与を検討している農家に対し、野草を主とした飼料設計を実施し、飼料費低減効果を試算した。併せて、肝蛭の予防や毒草の混入防止など、野草利用における飼養管理の指導を実施した。

【結果】

①飼料支援は事業対象外の1戸を除き8戸が、奨励金は全9戸が参加し、両事業において管内対象農家が全戸参加することとなった。令和5年度の支援実績金額は、管内繁殖雌牛1頭当たり、配合飼料支援：5,199円、粗飼料支援：13,324円、基金：13,980円、奨励金：8,276円となった。基金、奨励金は子牛の出荷頭数や保留頭数により異なり、各農場における繁殖雌牛の頭数に対する子牛の出荷頭数と保留頭数の合計の割合が70%以上の上位5農家と、70%未満の下位4農家で比較すると、基金と奨励金の合計に9,711円の差があった。子牛を産ませ、事故なく出荷できている農家では基金、奨励金の合計が高くなった（図2）。

②対象農家は繁殖雌牛を約25頭飼養し、粗飼料としてイタリアンライグラス及び稲WCSを、配合飼料としてビール粕や豆腐粕の自家配合を給与していた。今回、イタリアンライグラスを野草

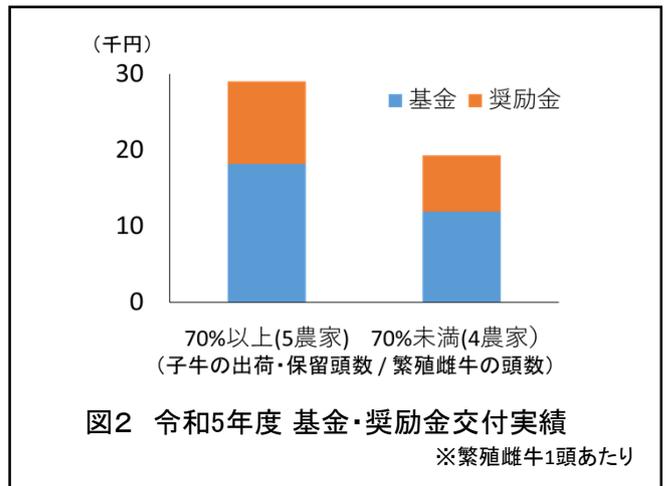
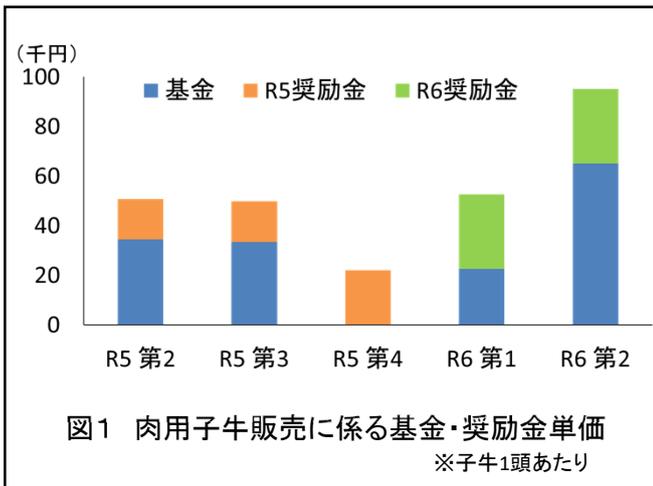
に変更し、乾物量が充足するよう飼料設計を実施したところ、充足率は乾物量 101.1%、粗蛋白質 167.2%、可消化養分総量 123.0%となった。(図 3)。粗飼料から野草へ変更した飼料で、変更前と比べ繁殖雌牛 1 頭あたり年間 25,404 円削減できると試算した。なお、粗飼料から野草に変更する前後において、豆腐粕の仕入れ先を変更したことにより、自家配合の価格も低減されている(図 4)。一方、飼料中の粗蛋白質含量が高いことから、飼料給与量は個体の BCS や繁殖成績を勘案して調整するよう指導した。また、飼料計算で使用した日本標準飼料成分表(2009 年版)における野草(あぜ)の水分含量値が 76.3%であったのに対し、当所において畜主の野草水分含量を加熱減量法で測定したところ 26.7%となった。したがって給与量の決定には水分含量の考慮も必要と考えられた。なお、野草が原因と思われる事故や中毒は確認されていない。

【考察】

飼料支援や奨励金の周知について、文書だけでは事業案内を確認しない農家や、申請の煩雑さから参加を見送ろうとする農家があった。しかし、電話や対面で丁寧に事業内容を説明することで、最終的には対象農家が全戸事業申請し、全ての農家の経営の一助となったと考えられた。また、安定した子牛の出荷は生産物としての利益だけでなく、基金、奨励金の面でも利点があることが数値化され、子牛の適切な管理の重要性が改めて示された。

つぎに、野草の利用について、飼料費低減に有効と試算されたが、粗蛋白質の充足率が高くなることに加え、水分含量の考慮が必要であった。このことから、野草を飼料として活用する場合、飼料計算どおりではなく BCS や繁殖成績など個体の状態をみながら、飼料給与量を調整する必要があると考えられた。

このように、様々な支援や取組があるが、令和 5 年度畜産経営指導事業に参加した県内 11 農家中、10 農家で経常利益が大幅な赤字となっている。今回、1 農家では野草の活用に取り組んだが、各農家において経営改善のためのさらなる取組が必要な状況である。現在、当所は農家の収益向上のため、優良な子牛の生産を目指し、ゲノミック育種価解析の推進、優良繁殖雌牛更新加速化事業の推進、積極的な繁殖検診などに取り組んでいる。今後も各農家に適した生産性向上のための助言を続ける。



【指導前】		充足率 (%)	
(8ヶ月)	自家配合 4kg イタリアン 5kg	DM:93.7	CP:118.8 TDN:125.1
(4ヶ月)	自家配合 4kg 稲WCS 7kg	DM:60.8	CP:94.2 TDN:70.9

【指導後】			
(全期間)	自家配合 4kg 野草 18kg 稲WCS 2kg	DM:101.1	CP:167.2 TDN:123.0

図3 指導前後の飼料比較(充足率)

【指導前】			
(8ヶ月)	自家配合 4kg 54.4円 イタリアン 5kg 240円	$\frac{(294.4 \times 8 + 180.4 \times 4)}{12} = 256.4$	69.6 円 / 頭 / 日
(4ヶ月)	自家配合 4kg 54.4円 稲WCS 7kg 126円		

【指導後】			
(全期間)	自家配合 4kg 22.8円 野草 18kg 128円 稲WCS 2kg 36円	186.8	$25,404 \text{ 円 / 頭 / 年}$

図4 指導前後の飼料比較(費用)